



陸軍特別大演習と群馬県の記録

昭和前期、群馬県では陸軍特別大演習が一大国家行事として実施されました。昭和8年12月、天皇が大元帥として統帥する特別大演習を翌9年11月に北関東で行うとの通知が県に届きます。県はこれを「未曾有の光栄」として受け止め、道路舗装や橋梁工事などの関連事業に85万円余の予算を投入し、急速に準備を進めました。

昭和9年11月の大演習では、数万人の陸軍部隊が群馬県南部を中心に展開。大観兵式に続き、天皇による地方巡幸も行われ、県内の学校・施設・工場が視察されました。こうした一連の行事に対し、当時の群馬県は官民を挙げて取り組みました。

7 昭和9年・陸軍大演習の記念写真

昭和9(1934)年

昭和9年の陸軍特別大演習で撮影された記念写真です。天皇と将官が最前列に並び、背後に大勢の将兵が整列しており、当時の演習規模を物語る資料です。

田村あい子家文書『[昭和九年陸軍大演習将士記念大写真]』(P08506 392)